



にこまるのメンバー

にこまる

学生

地域貢献事業

第6回

マッチングアプリを愛大生は使っていない。結婚や少子化問題に取り組み「にこまる」が昨年、愛知大豊橋校舎に通う学生らを対象に行ったアンケート調査で浮き彫りになった。

この結果にメンバーは、「地域柄もあるかもしれませんが。都会だと一人暮らしで寂しいという理由で使う人もいるのかなと思います。豊橋校舎だと実家暮らしの人も多いので、そもそもマッチングアプリを使ってまで出会うという考えがないのでは。名古屋校舎で聞いたら、結果は変わるかもしれません」と考察する。

2019年に発足した「にこまる」は、大学生目線で結婚や少子化問題について考えてきた。大学生

に少子高齢化の現状を伝える活動や、子どもたちと実際に触れ合うイベントを企画することで、大学生に子育ての大変さを知るきっかけも提供。間接的ではあるが、結婚への興味、関心が高まることを期待する。

代表の3年、児島拓実さんは「活動を通して少子高齢化や晩婚化など、社会問題について学びが深まりました。考察で知識が得られ、面白いし、やりがいがあります」と話す。

第2弾となるアンケート調査は、地域政策学部の約240人を対象に実施した。結果は、子どもを育てることに前向きな人も多く、結婚して子どもを持つというライフスタイルが今の学生にも根強く残っていることが浮き上がった。

一方で、1割は「結婚したいとは思わない」という結果に。メンバーは「賃金が上がらないとか、多様性の中の夫婦別姓など、個人の結婚観は変化しています。今までは結婚して子どもが生まれて、という感じが一般的でしたが、違う視点もありだなど、考えるようになりました。選択肢の幅が広いなと思っています」と、活動の中で

自身の価値観の変化も感じている。この地域のリアルな若者の結婚観を伝えるため、今回の結果を豊橋市役所と共有する。「子育て支援は地域をつくる一つの大きな要因になる」とメンバー。今後は、行政が行う子育て支援活動の発信も予定する。自身のライフプランを考える活動であると共に、地域の未来も考えている。

※協力・愛知大学 (飯塚雪)

結婚や少子化問題に向き合おう



子どもたちとふれ合った工作イベント